



しょうた やまだい
正田 洋一 議員

三原赤十字病院の産婦人科医療の充実について

問 三原赤十字病院は、平成25年10月から分娩可能な病院ではなくなつた。病院関係者・医師会・市長が課題解決に奔走されていると聞くが、分娩可能な医療体制の整備とその現状について問う。

答 平成2年から常勤医師3名で診療を行なってきたが、25年3月末に1名、残る医師2名も10月末で退職された。本市の分娩の約3分の1を担っていた三原赤十字病院の分娩中止の危機を、市は重く受け止め、三原赤十字病院・県と連携し、産科医師の確保に努めてきた。

岡山大学への要望活動や、県知事に対して医師確保の要望書を提出した。また、広島県周産期医療協議会へも要望を行った。しかし、

問 産科医師と同様に助産師も貴重な人材であるが、本市として現状を把握しているか。「流出の懸念」を課題として捉えているか問う。

答 三原赤十字病院では、

常勤の助産師が10名在籍。現在、助産師外来や産科以外の看護などに従事しており、退職される助産師はいないと聞く。

しかし、このまま分娩のできない状態が長期化すれば、退職される助産師もでてくることを懸念されている。三原赤十字病院では、早期の分娩再開に向けて取り組みられている。また、本市としても、引き続き、県・三原赤十字病院・医師会と連携して、産婦人科医療の再開に向けて鋭意取り組んでいく。



かめやま ひろみち
亀山 弘道 議員

教育条件の整備について

問 日常の連絡や不審者・災害対応など「学校の安心と安全」を確保するために、各教室にインターホンが必要ではないか。

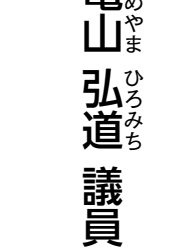
答 新築や大規模改修の際は整備している。未設置の学校は、計画的整備に努める。

問 更衣室がなく便宜的に特別教室を使っている学校は、安心と安全の面から問題があるのでは。

答 新築の際には整備している。外部からの遮り

が不十分であれば問題である。現状を確認し必要な対応を行っていく。

問 運輸業では、運転手の体調管理に責任が課せられている。教育委員会や校長にも同じ責任がある。先生が疲れ切つて間違つた対応をすると、子どもの伸びるチャンスの芽を逆に摘むことになる。これは、運輸業では



「つなごうネット」への掲載を検討する。

問 協働事業で木原や西野、大和町で散歩道の整備が進められているが、「三原市お散歩百コース」等、サブテーマを定め、募集することはできないか。

答 関係団体等の理解が不可欠であり、市の考えだけでは実施は難しく、今後検討していく。

事故だ。ベストの状態の先生を配置できないのは教育の危機であると捉えるべきではないか。

答 よりよい授業を実施するため、大変重要である。書類の簡素化等、業務改善を進めている。今後とも、教職員が子どもと向き合える環境づくりに取り組んでいく。

問 利用や紹介は。

答 9月19日に報道関係者に、24日から関係課・三原観光協会において配布、広島県山岳連盟等の関係団体に送られ、現段階では残りわずか。

問 市ホームページからの検索は。

答 市ホームページにある、三原市民協働サイト

市民提案型協働事業「三原10名山」について

問 市民活動団体等と市の緊密なパートナーシップのもと、一層の連携方法を検討していくか。

答 市民活動団体等と市の緊密なパートナーシップのもと、一層の連携方法を検討していく。

